

若年女性を取り巻く現状

bond *Project* 特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

2006年「VOICES MAGAZINE」始動、2009年 NPO 設立

聴く。

ありのままの声を聴き表現できる場を作る。

LINE 相談、メール相談、電話相談、面接相談、
bond@ あらかわ相談室、ネットパトロール、街頭パトロール、アンケート、
カフェ型移動相談

伝える。

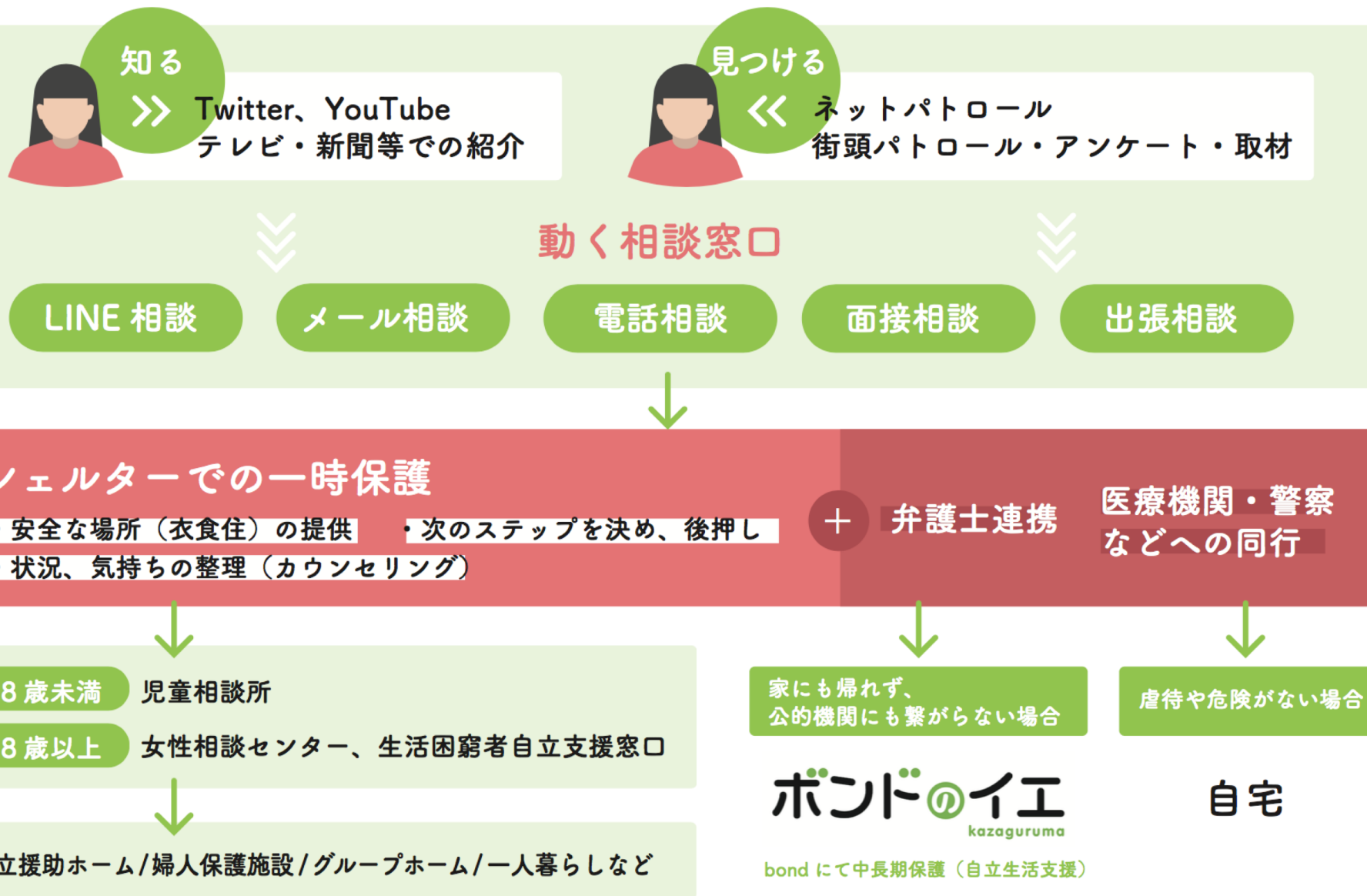
女の子の声を知ってもらう。

フリーペーパー「VOICES MAGAZINE」発行、講演会・啓発活動、
10代20代女性を対象としたイベント、
渋谷のラジオパーソナリティー「渋谷の漂流少女たち」

繋げる。

一人一人に見合った支援、大人に繋ぐ。

弁護士と連携し、他専門機関へ繋ぐ
一時保護、同行支援
中長期保護（自立生活支援）



2018年1月～12月

(件)

メール	LINE	電話	面談	保護	同行支援	他機関連携
14,711	14,041	1,555	1,149	602	68	667

相談・支援体制

メール

24時間受付

LINE

SNS事業 週5回・各4時間 若草プロジェクト 週3回・各4-5時間

電話

bond本部 随時対応 bond@あらかわ 週3回・各3時間

面談

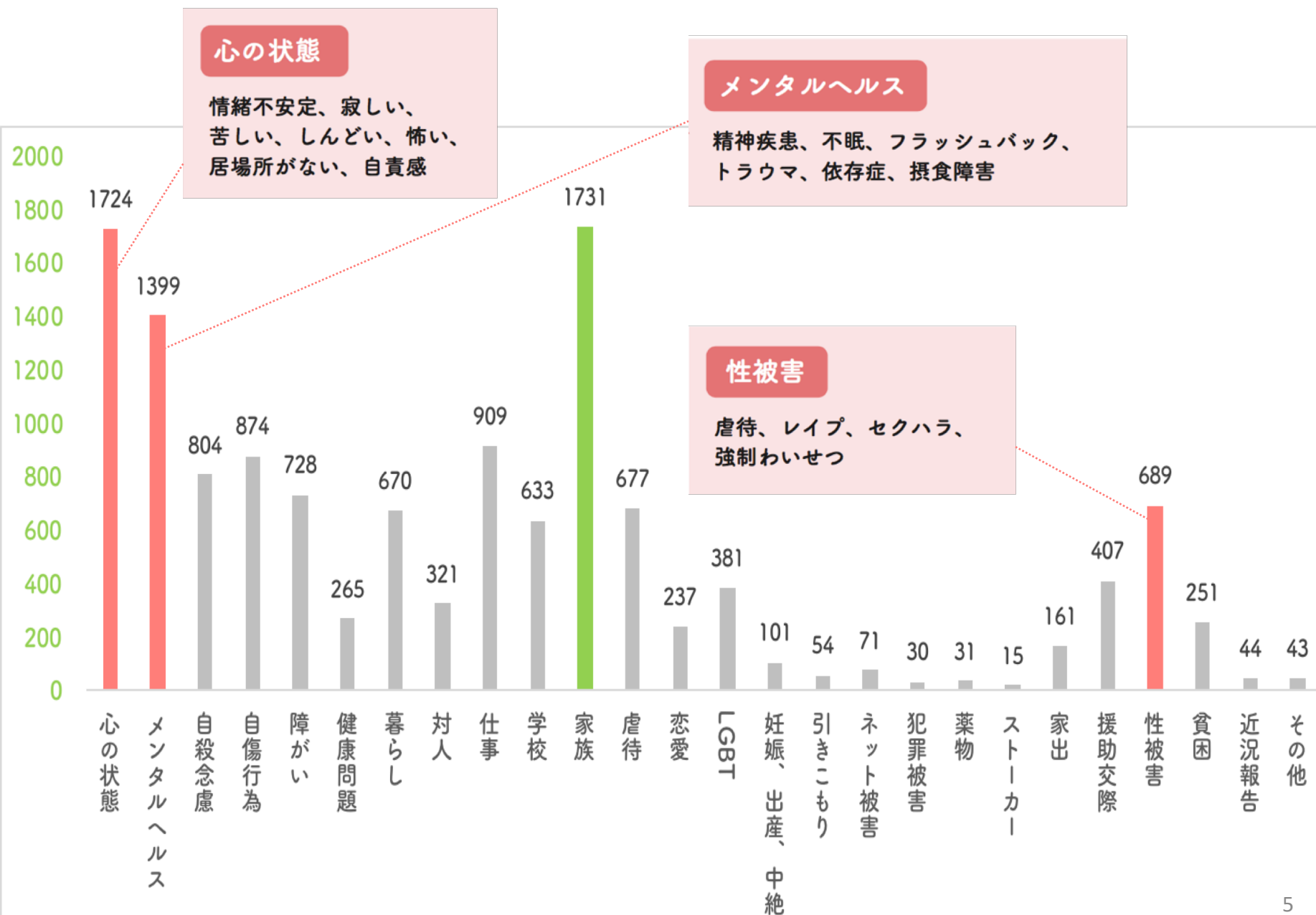
bond本部 随時対応 bond@あらかわ 週3回・最大3名/日

同行支援

福祉事務所、病院、警察、児童相談所、婦人相談、各種手続きなど

他機関連携

警察、弁護士、女性相談センター、婦人相談所、福祉事務所（保健師、ワーカー等含む）、社会協議福祉会、地域活動支援センター、自立援助ホーム、こどもシェルター、産婦人科、就労支援センター、その他民間支援団体



行き場のない少女たち Girls who do not come

家

虐待、安心できない
食べるものがないなど



家のことは話せない
いじめ、教師との不和
学校にも行けていないなど

学校

逃げよう・・・でも家出しか方法が思いつかない

警察補導

保護、
家に帰されるケース多数

公的機関

情報を知らない、
手続きが煩雑、時間がかかる

✓ 行くあてがなく
彷徨う

✓ 未成年、身分証がない

✓ ネットカフェ、カラオケ等深夜はいられない

✓ お金がない

✓ 働けるところがない



SNS を利用して居場所を求める、街で声をかけられた人について行く

すぐに行ける場所、受け入れてくれる人、困ってる自分を助けてくれる人、寂しい時一緒にいてくれる人

(危ないかもしれないけど・・・)



泊め男



犯罪に巻き込まれるリスク



性被害性的搾取

背景・経緯

座間9遺体事件

2017年10月、神奈川県座間市のアパート内で9人の遺体が見つかった事件。被害に遭った10代20代だった女性たちとの接点は交流サイト（SNS）。女性たちが自殺をほのめかすような投稿をしたところ、協力するふりを装って接近したとされる。

被害女性には bond Project に来る相談者にとっても近い印象を受けた。

2018年3月、厚生労働省自殺防止対策事業として「SNSによる相談事業」施行。

ネットに居場所を求める若年女性へのアプローチ、気軽且つ早いレスポンスで会話ができる LINE 相談の強化。

- ✓ ハイリスク者の**早期発見・早期介入**
- ✓ **リアルタイム**でのやりとり
- ✓ bondProjectの既存の支援
面談、保護、専門機関への連携に**繋ぐ**

ネットパトロールを担当しているのは
同世代の女の子。



▶ LINE相談者数（実数） 月平均 420人 （2018年度データ）

ネットパトロール

Twitter

フォローする

殺してください。
殺してください
殺してくれる人募集します。
頑張ったねって言って殺してください。お願いします。
私にとっては生きてるのが辛いです。ストレスです。もう私も私で頑張ったから死にたいです。私なりに頑張ったので死にたいです。死にたい。助けて。助けて

19:20 - 2019年3月1日

1 1

bond

こんばんは、突然ごめんね。私たちは生きづらさを抱える若年女性の支援をしているNPO法人bondprojectです。現在、LINE相談をやっているよ。気が向いたらでいいので、LINEでお話聞かせてくれたら嬉しいな。よかったらHP見てみてね。 <http://bondproject.jp/>

返信

なんでお父さん死んじゃったんだろ...
相手してくれて、話を聞いてくれて、笑ってくれて
大好きだったのに
お母さんは、私が泣いてたら怒鳴って、話を聞いてくれなくて、ご飯もなくて、一人ぼっち...
寂しいよ...死にたい...
#病み #病み垢 #病み垢女子 #病み垢さんとつながりたい #死にたい

1 11

bond Project
@bond_project

こんにちは。突然ごめんね。わたしたちはbondプロジェクトです。10～20代の生きづらさを抱えた女の子の支援をしています。今LINEで相談を受けているんだけど、よければお話聞かせてくれたらうれしいな。私たちのLINEのQRコードを送るよ。
気が向いたらでいいから、よろしくね。

掲示板

 aki*****さん 2019/3/8 18:46:34

希死念慮、お辛いですね。何かが変わるわけではないかもしれませんが、それでもやっぱり気持ちを吐き出すところからでも初めてみて欲しいと思っています。

現在厚生労働省がSNS上で悩み相談を受け付けるメンタルケア事業をやっているそうです。電話ではなくLINEでお話を聞いてもらえるようなので、利用してみるのはいかがでしょうか。。
↓SNS相談を行なっている事業がまとめられたサイトです。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000199724.html>

よければ見てみてくださいね。
1日も早く心安らかになる日が訪れますように。

▶ ネットパトロールからLINE相談に繋がった人数
202人
(2018年3月～2019年3月)

▶ 10代 女性のケース

虐待あり。家が汚く、過去の父親からの被害のフラッシュバック等もあり。
家は出たいが、親との関係は切りたくはない。家が居づらいこと、寂しい気持ちから、
パパ活や、SNSで出会った男性と会ったり等を繰り返していた。
被害に遭うこともあったが、寂しい気持ちからやめられずにいた。
ネットパトロール中、彼女のTwitterでの投稿が気になり、DMを送ったところ、
LINE相談に繋がった。
子どもシェルター（弁護士）に繋げ、地元の支援者と連携をし、彼女の支援体制を整えた。

LINE相談→電話聞き取り→面談→同行支援→繋ぎ・連携（子どもシェルター、弁護士、児童相談所）

▶ 20代 女性のケース

虐待あり。家に入れてもらえない日は、友達の家やネットカフェ、お金がない時は
自宅マンションのエントランス等で過ごしていた。
口座を親に管理されていたため、アルバイトで稼いだお金は親に取られてしまい、
わずかなお金しか使えない。
ネットで検索しお金を得る方法として、下着を売っていたこともあった。
そんな中、当団体がネットパトロールで書き込んだ掲示板を見つけ、相談した。
大学に通っていたため、公的な支援を受けることも難しく、当団体の自立準備のための
シェルターで中長期保護をすることとなった。

LINE相談→電話聞き取り→面談→短期保護→中長期保護（自立準備のための支援）へ移行

公的支援に繋がれない、制度に辿り着けない女の子たち。

- ・次に繋がらないまま18歳になり児童福祉法による支援が終了
- ・学校には通えているが虐待家庭にあり居場所のない大学生

➤ 行く場所がない、お金がない、自立準備のための拠点がないため、居場所はネットカフェ、公園、SNSで知り合った男性宅、カラオケ、ネットカフェ。



このおうちで女の子に提供するもの

- 1 安心できる生活（衣食住）
- 2 生活習慣の獲得（料理・洗濯・掃除・お風呂の入り方・食べ方）
- 3 心のケア（ボンドスタッフとの会話・面談、臨床心理士によるカウンセリング、共同生活者との関係づくり）
- 4 つながりを増やす（必要に応じて他の支援機関や自助グループなどの紹介）
- 5 自立へのサポート（仕事を探す、自立までの計画を一緒に立てる、家探しなど自立準備の補助）

いろんな経験や繋がりを自分のものにし、自分の足で立つ力を後押ししたい。

2017年7月末始動～2019年3月 ▶▶▶ ボンドのイエ 中長期保護 9名

1、現状の課題、問題

- ▶ 既存の制度や公的シェルターが若年女性の現状に添っておらず、支援を必要としていてもこぼれ落ちてしまう。
- ▶ 児相相談所や婦人保護施設等では措置制度が取られているが、行政に大きな裁量があり、制度の対象者をどう線引きするかなどは都道府県によって、あるいは担当者によってバラツキがある。
- ▶ 保護してもらうまでに時間や煩雑な手続きを要する。
- ▶ BONDプロジェクトが独自に運営するシェルター「ボンドのイエ」だけでは部屋数が足りていない。相談に追いつかない。

2、提案の内容

- ▶ 家には帰れない、でも学校には行ける、フルタイムで働けないなど若年のDV被害女性特有の傾向や現状に添ったシェルターを増やす。
- ▶ 本人から直接連絡をもらい、素早く保護できるようにする。措置から契約への転換。（福祉事務所や婦人相談員を場合によっては通さないなど臨機応変に）
- ▶ 上から目線の支援ではなく、本人の意思を大切にできるように。
- ▶ 保護した後の若年女性に特化したディケアサービスの拡大。（心身のケアを受けられるようにする。「行きたくなる、参加したくなる」ようなプログラムを作る。就労などの支援に繋がれる。）

1、困難を抱える若年女性のケアの充実

虐待や性被害など「被害者」と認められるためのハードルが高いがために、泣き寝入りをせざるを得なかったり、親に援助してもらえない、保険証が手元にない、交通手段がない、お金がない、周りに知られたくない等の理由により、心身のケアや支援を受けることができないまま孤立してしまう女性も多いです。

2、各行政相談機関・各警察署における、 若年女性に特化した問題に詳しい担当者の配置

各相談窓口や警察署へ相談に行くまでもハードルが高く、被害者が自身の生活やお金、精神を削りながら相談に通うにも関わらず、心ない対応をされてしまったり、「警察に相談に行っても安心できない」「二次被害を受け、問題が増えてしまった」ということも大きな問題だと考えています。受けなくていい被害を受けてしまった人が「相談してよかった」と思えるような心ある体制づくりが必要です。

3、bond 支部の設置

全国から寄せられる相談に対し、状況に応じて出張面談及び地域の相談機関への同行支援なども行ってきたが、遠方で対応するには限界もあります。全国に支部を増やすことで、より早急に問題解決に向け動き出すことができ、継続的な支援を行うことができます。

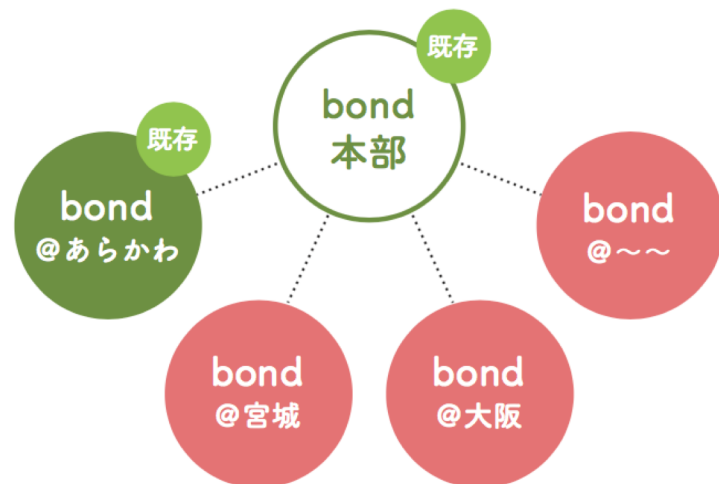
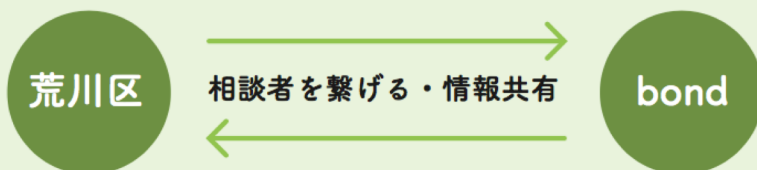
<背景>

17歳までは児童相談所、18歳以降は婦人相談所への相談となるが、18歳になり児童相談所の支援が終了することで、そこで支援がぶつ切りになってしまうケースも多い。また、高校生であるのに17歳から18歳になることで支援内容が変わってしまうこと、若年女性が高齢女性と全く同じ支援の枠組みに収まることが困難であること等より、細かい年齢差で支援がぶつ切りにならないような「若年女性」という枠組みでの支援、中長期的なトータルサポートができる場所が必要である。

ex. 荒川区より委託を受けている「あらかわ相談室」

荒川区における若年世代の自殺予防相談事業

- ・相談対応（メール、電話、面談）
- ・緊急時の保護、同行支援



支部イメージ図

4、相談窓口まで辿り着けない女の子たちが、 気軽に立ち寄れる居場所づくり

「相談窓口」は女の子たちにとってハードルが高く、辿り着けない子も多いです。また、段階として「今」はまだ、相談することまで望んでいない子もいます。しかし、困っていたり悩んでいることに変わりはなく、居場所や相談のきっかけ作りは必要です。

また、一晩の居場所があり休むことができれば落ち着く場合もあります。気軽に立ち寄れる場所があることで、犯罪被害や性搾取の防止にも繋がります。

ex. 以前運営していた「café MELT（カフェメルト）」

- ・24時間営業インターネットカフェ（通常のカフェスペースもあり）
- ・深夜帯は女性専用
- ・カフェスペースでは女の子向けのイベントなども開催
- ・お客さんとして女の子が気軽に立ち寄れる
- ・bondスタッフがカフェスタッフを兼任→ハードルを下げた関わり
- ・NPO 事務所も併設→状況に応じ相談や緊急時の保護も可能



ハシゴを上がると、
休めるスペースに！

